

つながる EPO ネットワーク

全国8カ所に設置された
環境パートナーシップオフィス(EPO)の活動

気候変動適応のための 「見える化」について考える

原 理史 (環境省中部環境パートナーシップオフィス)

令和元年10月12日～13日に来襲した台風は全国で記録的な大雨となり、甚大な被害をもたらした。長野県でも千曲川の堤防決壊により、新幹線が冠水被害する映像がニュースで流れ、度肝を抜かれた記憶が生々しい。長野市に住んでいる知人からは、「家の前の道の向こう側まで水につかりましたわ。ハザードマップどおりで。」との話も聞いている。このような気象災害はこの数年間毎年のように起こっており、「異常気象」が「日常」になるというウソのような話が現実化している。これに対しては気象・環境情報の「見える化」が進展している。例えばハザードマップは災害リスク情報の「見える化」の一例である。また気象情報の将来予測をサイト「気候変動適応

情報プラットフォーム」で入手することもできる。

問題はこのような情報を有効活用する方法である。そこでは市民が構成する地域社会の営みの中でこれらの情報を「我が事化」することが必要となる。どのように使ってどのように役立てるかはその地域の地域で様々な方法があるので、情報の使い方自体の「見える化」も必要となろう。その際に気象・環境情報が使いにくい場合は、より使いやすい「見える化」情報を発信者に要望する必要も出てくる。また有効活用するためには、前提として地域社会の営みそのものを「見える化」しておく必要があるかもしれない。こうした情報と地域社会の接



ハザードマップ名古屋市中区部分

点の作り方は非常に重要で、「見える化」はEPOに関わる今後の地域づくりにおいて大きな課題と考える今日この頃である。

環境省
環境省中部環境パートナーシップオフィス
原 理史(はら まさし)

民間環境コンサルタントを経て一般社団法人環境創造研究センター(愛知県温暖化防止活動推進センター)に所属。2013年より中部大学中部高等学術研究所に在籍、環境コミュニケーション研究を継続。2018年よりEPO中部を兼務。

つな環
つなぐ環境パートナーシップ

第35号

2020年3月発行

編集・発行：地球環境パートナーシッププラザ
<http://www.geoc.jp/>
〒150-0001
東京都渋谷区神宮前5-53-70 国連大学1F
Tel. 03-3407-8107 Fax. 03-3407-8164
開館時間：10:00～18:00(火～金曜)
セミナー開催時は21:00まで
10:00～17:00(土曜)
休館日：日曜・月曜・祝日・年末年始

関東地方環境パートナーシップオフィス(関東EPO)
〒150-0001
東京都渋谷区神宮前5-53-67 コスモス青山B1F
Tel. 03-3406-5180 Fax. 03-3406-5064
業務時間：10:00～18:00
休業日：土曜、日曜、祝日、年末年始

デザイン：安食正之(北路社)
印刷：光写真印刷株式会社

GEOC/EPOからのお知らせ

UNDB-Jでは「未来へつなぐ『国連生物多様性の10年』せいかりレー」キャンペーンを実施しています。生物多様性の世界目標である「愛知目標」の目標年であり、「国連生物多様性の10年」の最終年でもある2020年に開催される生物多様性に関するイベント等を応援する取組です。下記サイトより参加登録頂く

と、イベント開催告知をUNDB-J特設ウェブサイトに掲載し、SNS等で発信します。届いた開催結果は2020年秋の生物多様性条約COP15の国際会議イベント等で発信します。

<http://undb.jp/seika/>

つな環編集部 星野智子、尾山優子、指澤佳代、江口健介、浦林貴子、今井麻希子(順不同)

つな環

検索

「つな環」はインターネットからもご覧いただけます。
<http://www.geoc.jp/information/tsunakan>



未来へつなぐ「国連生物多様性の10年」せいかりレー